

令和8年度 第2回学校運営協議会 記録

- 1 日 時 令和8年7月9日（木）午前10時から正午まで
- 2 場 所 浜松みをつくし特別支援学校 会議室
- 3 参加者 学校運営協議会評議委員 5人出席、2人欠席
 - ・ A委員（大学教授）
 - ・ B委員（元小学校校長）
 - ・ C委員（自治会長）
 - ・ D委員（幼稚園園長）…欠席
 - ・ E委員（商工会副会長）
 - ・ F委員（鉄道株式会社常務取締役）…欠席
 - ・ G委員（PTA 会長）学校関係者 9人出席
 - ・ 校長 ・ 副校長 ・ 教頭 ・ 事務長 ・ 小学部主事 ・ 中学部主事 ・ 高等部主事
 - ・ 地域連携課長 ・ 教務課長

4 次第

(1) 校長挨拶

高等部では、作業学習を学習の中心に据え、四つの作業班に分かれて活動している。2、3学期に販売会があり、自分たちの製品を一般の方々に買っていただける機会がある。今日、この場に高等部生徒が来ており、皆様への作業製品のアピールとアンケートの御協力をお願いしたい。

<高等部生徒より>

班ごとに作業製品の紹介を行い、良かったところや改善点について二次元バーコードを読み込んで回答していただくよう呼びかけた。

作業班	製品
レザークラフト班	コードクリップ
木工班	箸置き、フォトフレーム、ティッシュボックス、 眼鏡が掛けられる小物入れ、
農園芸班	きゅうり、なす、ミニトマト、ゴーヤ、ピーマン
手芸班	かごバック、小物入れ、リース、布巾、トートバック、コースター

(2) 授業参観

小→中→高の順番で、校内参観をした。(50分)

(3) 議事

ア 授業参観の感想

- ・ 一生懸命に細かい作業に取り組む子どもたちの姿がみられた。欲しいと思う製品があった。

- ・作業学習では、子どもたちの集中力を長続きさせたり、道具を安全に使用させたりと、先生たちの苦勞を感じて感心した。
- ・子どもたちは挨拶ができていた。明るく、楽しく活動している姿が見られた。作業学習を通して、忍耐力がつくと思った。また、子どもたちが作ったものは色彩感覚も良くて、見ていて楽しかった。
- ・小学部は、掲示物に季節感があって、行事に合わせて学習過程が工夫されていると思った。中学部と高等部は、どちらも作業の内容だったが、中学部は1対1でミシンを使っていて、高等部はマニュアルを見て自分でやっていたり、刺し子の縫い目が細くなっていたりして、成長（中から高への積み上げ）を感じた。
- ・開校6年目。みをつくしならではの文化が育まれていると感じた。地域のお店からいただいたコーヒーを使った染めの活動も続いていた。この地域だったらみかんなど、自分たちが作って、それを使って染める取り組みも楽しいかもしれない。これからも地域とつながっていけると良い。

イ 前回の委員会でもいただいた御意見について

資料を示しながら、前回いただいた意見や提言について回答した。(副校長)

委員より、国籍が異なる保護者とのコミュニケーションの一つとして、翻訳ツールを活用したいとの回答に対して、PTAでも参考にしたいため具体的に使っているツールは何かと質問があった。

→Google 翻訳を使っていること、音声入力の活用も有効であるとする、と伝えた。

ウ コミュニティスクールプロジェクトの進捗状況について

スライドを見ながら、4月からの取り組みを紹介した。(地域連携課長)

課題である“人が変わっても持続できる体制づくり”の一環として、みをつくしサポーターの方が継続して参加したくなるようなアイデアについて意見を募った。

＜委員からの意見＞

- ・必要な活動は、年間活動に位置付けていく。
- ・活動後等に、他の学部や学年の授業参観をしてもらう時間があると、さらに学校に興味をもってくれるのではないか。
- ・サポーター同士がくつろげる部屋（サポータールーム）で、サポーター同士がつながりをもてると良い。
- ・もう少し広く、今後も継続して募集をかけていくと良い。

エ 本校のいじめ防止対策について

資料を示しながら、本校のいじめ防止基本方針について説明した。(教頭)

(5) 諸連絡

- ・次回、第3回学校運営協議会は11月20日（金）